

特集 論文のコツ（パラグラフィティングの基本）

皆さん、学びあってるか〜い！ 3年生の皆さんはいよいよ論文執筆ですね。書き上げるのに大変苦労することと思います。そんな3年生のために、論文の書き方講座としてパラグラフィティングの基本を解説します。2年生の皆さんも、いずれは論文を執筆することになるので、参考にして下さい。

パラグラフとは、国語で勉強する段落のことです。論文のパラグラフについては、一般に「一つのパラグラフには一つのトピック（話題とする事柄）をまとめる」こととなっています。トピックは各パラグラフの見出しと対応しています。

パラグラフの書き方には、いわゆる「型」があります。型に従って書くことには、書き手、読み手にとって次のようなメリットがあります。

書き手：	① 内容が明確になる。	② 情報を整理しやすい。	③ 論理的に書ける。
読み手：	① 内容を捉えやすい。	② 拾い読みができる。	③ 論理を捉えやすい。

つまり、書き手にとっては論文が書きやすく、読み手にとっては論文が分かりやすいものになる、というわけです。では、その「型」と書き方のコツについて解説しましょう。

1 パラグラフの型（構造）

パラグラフは、①トピックセンテンス（話題と主張）、②サポーティングセンテンス（説明）、③コンクルーディングセンテンス（まとめ）によって構成されます。ひとつのパラグラフでは、ひとつのトピックを扱うのがルールです。

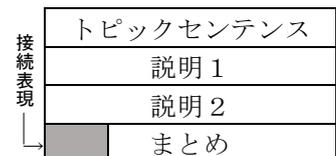


図1：パラグラフの構造

2 トピックセンテンス（topic sentence 話題と主張）を書こう！

トピックセンテンスでは、そのパラグラフで扱うトピック（話題）を明確に提示します。そのうえで、その話題についての書き手の主張・考えを示します。

トピックセンテンスは、読者に対して、これから何について述べるのか、を宣言するものです。併せて、そのパラグラフで、トピックについてどのように述べるのか（説明の順序や着眼点等）を予め説明しておいてもよいでしょう。

3 サポーティングセンテンス（supporting sentence 説明）を書こう！

サポーティングセンテンスでは、トピックセンテンスに示した話題と主張に対しての説明を行います。トピックセンテンスの主張を裏付ける情報を示しつつ、読み手に納得してもらえるように丁寧に説明します。根拠や具体例を挙げるとよいでしょう。

4 コンクルーディングセンテンス（concluding sentence まとめ）を書こう！

コンクルーディングセンテンスでは、サポートセンテンスで述べたことを踏まえて、もう一度トピックについての主張を述べます。トピックセンテンスと同じ表現で書いても構いませんが、サポートセンテンスでの説明を生かして、別の表現で言い換えるのがベターでしょう。

なお、コンクルーディングセンテンスを書く際には、コンクルーディングセンテンスであることが明確に示されるような接続表現（つまり、したがって など）を使うのが効果的です。

いかがでしょうか？ パラグラフィティングについて少しイメージできたでしょうか。もう少し具体的な例を示して欲しいという人のために、裏面に、井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』から具体例を転載します。ご参考に！

パラグラフライティングの具体例と解説

〈第1パラグラフ〉

①大学生は、生涯発達心理学における発達区分からすると青年期に位置するのだが、実は、青年期は、人間の一生において、子ども期を終えた人に必然的に訪れる一時期というわけではない。

②他の動物にも、太古の人間にも、生物学的に若い時期というのはあるが、青年期はそうした生物学的な発達段階を示すものではない。③たとえば、文化人類学者のミードは南太平洋にある島国サモアに住む若者には心理的葛藤や不適応はほとんど見られないとし、文明社会のあり方が青年の不安を作り出したと指摘した。④とすると、青年期は歴史的社会的背景のもとに誕生した「近代化の産物」ということになる（遠藤，2000）。

①トピックセンテンス

話題：青年期とは
主張：人間の一生に必然的に訪れるのではない。

②説明1

③説明2

接続表現：たとえば

④まとめ 「近代化の産物」

接続表現：とすると

言換え

〈第2パラグラフ〉

①たとえば、デービス（1944）は青年期について次のように述べている。

②青年期は身体的発達と社会的発達とのズレがはじめて顕著になる時期である。社会が複雑になるにつれて、このズレは大きくなり、社会的に定義された青年期が生物学的大人期まで入り込んでくる。

①トピックセンテンス

話題：青年期とは
接続表現：たとえば、

②説明1：引用

※「まとめ」無し

〈第3パラグラフ〉

①つまり、青年期にある若者は身体的にはすでに大人になっているが、社会が複雑になると大人になることが先延ばしされるというのである。②たとえば、わが国の進学率の推移をみても1950年代から1980年代に掛けて高校への進学率は40%から98%まで急激に増加しており（天野，1992）、学校教育によって社会に出て働き一人前になること、すなわち大人になることが先延ばしされていることがわかる。③さらに、大学がユニバーサル型に移行することによって、学校基本調査によると、大学進学率は2009年には5割を超えた。④これにより、大人になることはさらに先延ばしされるようになった。

①トピックセンテンス

話題：青年期とは
主張：社会が複雑になると大人になることが先延ばしされる。
接続表現：つまり

②説明1

接続表現：たとえば、すなわち

③説明2

接続表現：さらに

④まとめ

接続表現：これにより

主張：①と同じ

【出典：井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』（2013）、慶應義塾大学出版、pp. 89-90】

※ 引用にあたって一部表現を改めた。また、必要に応じて傍線等を施した。

解説

それぞれのパラグラフにトピックセンテンス（話題と主張）、サポーティングセンテンス（説明）、コンクルーディングセンテンス（まとめ）が書かれています。しかも、第1パラグラフは、文章全体の中で話題と主張を述べるものになっており、第2パラグラフはその根拠の説明、第3パラグラフは全体のまとめになっています。

このように、パラグラフ自体の構造が、文章全体の構造と同じになることで論理的で明晰な文章表現を可能にしているのです。

是非、プロの研究者が書いた論文を数多く読んでみてください。図表の掲載の仕方やレイアウトの工夫など、たくさん参考になることを発見できるはずです。やればできるゾー！